



令和2年度 8月の園だより



第二みみょう保育園

楽しかった。お泊まり保育

7/30(木)・31(金)に、年長組さんは、似島臨海少年自然の家へ一泊保育に出かけてきました。従来であれば、北広島町にあるログハウス『順源会山の家』に高校生のお兄ちゃん、お姉ちゃんたちと一緒に出かけますが、新型コロナウイルスの影響でログハウスをお借りすることが難しくなったことから、ひまわり会の年間計画では、安佐動物園経由で湯来ロッジに泊まり、翌日には植物公園に寄って帰ることを計画していましたが、全国的に感染が拡大していることもあり、急きょ予定を変更し、似島臨海少年自然の家に出かけることにしました。

とはいえ、広島においてもコロナ感染症が連日発生していること、7月初旬の大雨による広域で発生した自然災害のこと等もあり、お泊りで出かけることにご不安を覚える保護者も中にはいらしたかと思いますが、「何もしない、できない」の1年で卒園を迎えることだけは何とか避けたい。万が一のリスクがあるからという理由で中止の判断をすることは、子どもたちの普段できない経験や活動に制限をかけることになるため、関係機関との緊密な連携とリスクを最大限なくすることを前提に実施しました。

1日目、8時20分に園を出発。フェリーに乗り似島へ。現地到着後、キャンプファイヤーのできる大きな室内のプレイホールで始まりの式をし、少し早めの昼食は屋外にいただきました。当日は雨上がりの厳しい日差しであったため、芝生広場から木陰に場所を変えて大きなブルーシートを広げて愛情いっぱいのお弁当を食べました。子どもたちはお弁当が嬉しいのか、お友だちとお弁当を見せ合いながら美味しそうに食べていました。午後からは炊飯棟に移動し、バウムクーヘンづくりと芝滑りの2グループに分かれて交互に活動をしました。バウムクーヘンは、大正6年、似島に戦争捕虜(国際条約により捕虜の扱いは比較的寛大で様々な作業に従事していた)としてやってきたドイツ人カール・ユーハイムさんが、似島で日本初のバウムクーヘンを焼きあげ、「広島県物産陳列館(現在の原爆ドーム)で販売したことから似島が日本発祥の地と呼ばれることになったそうです。施設の職員さんがパネルを用いながら子どもたちにもわかりやすいように由来を説明してくれましたが、当時の

「似島臨海少年自然の家での一泊保育を終えて」

広島県物産陳列館の写真を見て、「原爆ドームだ!」という声が何人もから出たのには驚かされました。バウムクーヘンづくりは、熱せられた丸い竹の棒に生地をかけては焼くの繰り返しです。完成まで約1時間かかりましたが、交代で竹の棒を回したり、生地をかけたりしながら、香ばしい匂いとともにどんどん大きくなっていくバウムクーヘンに誰もが感動をしていました。バウムクーヘンはおやつとしていただきましたが、竹の棒から切り落とすバウムクーヘンを皆で見てもこちらで歓喜が上がっていました。そして自分たちでつくったという満足感もあってか、一口一口を噛みしめるように食べていました。バウムクーヘンづくりは諦めずにやり遂げる達成感や、生地をかけるタイミング(感覚)を気づいたり考えたり、そのことを友だちに伝えあったり表現したり、幼児期の終わりまでに育ってほしい学びの姿が多分に含まれていたと考えます。一方、ファイヤー場での芝滑りは、草が少し伸びていたためなかなか上手に滑れませんでした。その分、バツを捕まえたりして遊んでいました。夕食後は、キャンプファイヤーです。幾分でも涼しいということで急きょキャンプファイヤーは室内のプレイホールで行いました。そして、星空観察です。ブルーシートの上に寝転がり、外灯等をすべて消してもらい暗闇の中、光り輝く小さな星を時間の許す限り眺めました。その後は男女に分かれてお風呂に入り21時過ぎには就寝しました。暑さ疲れもありあつという間に寝ていました。

2日目、7時に起床してラジオ体操をしました。それから朝食を食べ、展望広場へ散策に出かけました。展望広場では海を眺め、汽船の汽笛を聞き、長い滑り台を滑ったり、ファイヤー場に戻り、短い時間でしたが草滑りをしたり、虫取りをして過ごしました。10時30分にはおわりの式をし、園に向けて戻りました。

一泊保育のねらいは、●自然と触れ合う中で自分たちの生活と自然のかかわりに気づき、あそびの中に取り入れ、生活経験を広める。●集団で生活する中で役割分担をし、楽しさを味わう。●一緒にあそびや生活を共にする中で、互いに協力し合いながら、自ら行動する機会を持つ。●親元から離れて友だちと生活することで家族への感謝の気持ちを感じる。などです。

広島県・広島県教育委員会では、平成29年2月に「遊び 学び 育つひろしまっ子」推進プランを策定し、乳幼児期の子どもたちに「感じる・気づく力」、「うごく力」、「考える力」、「やりぬく力」、「人とかかわる力」の5つの力を育みたいと考えています。この5つの力は、子どもが遊びの中で感性を働かせて、よさや美しさを感じ取ったり、不思議さに気付いたり、できるようになったことを試したり、工夫したりすることなどを通じて総合的に育つものです。生活が豊かで便利になる一方で、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が年々少なくなっている昨今、子どもたちの健やかな成長にとって一泊保育の体験がいかに大切であるかということが再認識できます。

このたびの1泊保育は、新型コロナウイルスの影響で、急なことではありましたが初めて似島を訪れました。例年は、北広島町の順源会山の家(ログハウス)に出かけて、トウモロコシの収穫をしたり、カレー作りのお手伝いをしたり、散策や虫取り、天体望遠鏡での星空観察などをしたりして過ごしますが、似島にも豊かな自然という素晴らしい環境があったり、バウムクーヘンづくりという貴重な体験できたのではないかと思います。途中でグループの入れ替わりがありましたが、1時間もみんなで粘り強く挑戦するという体験は、就学前のこの子たちにとって成長の糧につながると考えます。そして、できたという成功体験は自信につながり、またやってみよう、今度はこれをしてみようという意欲につながり、それが自己肯定感へとつながっていくと考えます。また、様々な場面で、自分のことは自分でしょうという姿が見てとれ、互いに刺激し合いながら、考え、やりぬこうと努力している姿がたくさんありました。子どもたちにとって意味のある2日間であったのではないかと考えています。実施にあたっては、いろいろとご心配をお掛けしましたが、私たち自身もリスクがないとは言えない中実施できたことは、例年のない喜びと達成感を味わいました。ご協力いただきましたことに心より感謝申し上げます。

第二みみょう保育園園長



保護者の方の愛情弁当。
あつという間に食べ終えていましたよ。



初めて作ったバウムクーヘン



散策に芝あそびわくわくすることがいっぱい!



室内キャンプファイヤー楽しかったね。



みんなで見たきれいな景色



なが〜いすべり台。
子どもたちの笑い声が
響き渡っていました。